

早稲田大学 法学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分
特徴・その他	論述1題・中国史1題・欧米史という構成は不変。ただ、論述の数は昨年までの250字から200字に減少。論述以外はすべてマーク式で、内容は基礎的な事実関係を問うものがほとんどである。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	中国史（魏晋南北朝時代）	2の均田制・3の建業・5の西ゴート族・6の法顕・8の征服王朝・9の南朝と典型的な設問ばかりである。市販の問題集をこなしていれば満点が可能。	易
II	オランダ史	1のレパントはギリシア西岸。海戦の場所を問うのは一般的。9の英蘭協約(1824)は答えにくい。	やや易
III	米独立と仏革命	4-3の三部会の定員は、第三身分の定数は600、第一・第二は各300。	標準
IV	テーマ史「自由」	6-ウの重農主義と自然法思想との関係、8-エのハーバート＝スペンサーの社会進化論は要注意。思想史を単なる暗記物として表面的な学習のみですませていると手がでなくなる。思想の背景、流れをおさえておきたい。	標準
V	19世紀の米外交 (論述 150～200字)	オーソドックスなテーマで、内容的に特別なことは何一つないが、字数のわりに指定語句が多いので、それを上手に配置しつつ	やや難

		かりした文章にまとめるのは意外に難しい。 てこずると時間を食う場合もありうる。まとめ方の巧拙で差がつきやすい問題である。	
--	--	---	--

〔総合コメント〕

問題の構成は従来と変わらないが、今年はお題分野にかなりの偏り（中国古代・欧米近代中心）がみられる。この傾向が続くかどうかはわからないが、欧米の近代史は要注意である。教科書レベルの基礎的知識で十分対応可能な問題が多いので、論述問題での得点差が命運を分けることになりそうである。論述対策には万全を期したい。